

令和7（2025）年度博士前期課程（留学生選抜）問題 目次

専門試験			ページ
人文学専攻	哲学コース	哲学哲学史	1 - 1
		科学技術社会論	
		臨床哲学	
		中国哲学	
		インド学・仏教学	
	グローバルヒストリー・ 地理学コース	東洋史学	2 - 4
		西洋史学	
		人文地理学	
	文学コース	中国文学	
		英米文学	5 - 11
		ドイツ文学	
		フランス文学	
		テキスト環境論	12 - 14
	比較・対照言語学コース	比較・対照言語学	15 - 18
日本学専攻	基盤日本学コース	現代日本学	
		日本史学	
		考古学	
		日本文学・日本語史学	19 - 24
		基盤日本語学	25 - 25
芸術学専攻	アート・メディア論コース	アート・メディア論	26 - 27
	美学・文芸学コース	美学	
		文芸学	
	音楽学・演劇学コース	音楽学	28 - 29
		演劇学	
	日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本東洋美術史	30 - 33
		西洋美術史	

注意 ①解答はすべて所定の解答用紙に記入すること
②問題用紙は持ち帰ること

I 次の英語文全体を日本語に訳しなさい。

I PROPOSE to consider the question, 'Can machines think?' This should begin with definitions of the meaning of the terms 'machine' and 'think'. The definitions might be framed so as to reflect so far as possible the normal use of the words, but this attitude is dangerous. If the meaning of the words 'machine' and 'think' are to be found by examining how they are commonly used it is difficult to escape the conclusion that the meaning and the answer to the question, 'Can machines think?' is to be sought in a statistical survey such as a Gallup poll. But this is absurd. Instead of attempting such a definition I shall replace the question by another, which is closely related to it and is expressed in relatively unambiguous words.

The new form of the problem can be described in terms of a game which we call the 'imitation game'.

(Alan Turing, "Computing Machinery and Intelligence", *Mind*, Vol. 59, No. 236 (pp. 433-460), 1950, p. 433, l. 9-1. 21)

II 以下の術語の中から、2項目を選択し、その番号を記した上、日本語で3行程度で説明しなさい。

1. 質料と形相
2. 予定調和（ライブニッツ）
3. 定言命法
4. ルサンチマン
5. ノイラートの舟

III 自由と必然について日本語で論じなさい。

令和 7 (2025) 年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
(博士前期課程／外国人留学生選抜) 入学者選抜試験問題
人文学専攻 (東洋史学受験分野) 筆記試験
[問題用紙は 3 枚です。]

(1 枚目/3 枚中)
[問題用紙は 3 枚です。I～IV について、それぞれ別々の解答用紙を使用すること]

I 英語問題

次の英語の文章を、すべて現代日本語に訳しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【Chakrabarty, D. and Saussy, H., “Afterword: The act of comparing (both sides, now),”
in Pollock, S. and Elman, B. eds., *What China and India once were* (New York:
Columbia University Press, 2018), p. 316, ll. 1-18】

(2 枚目/3 枚中)

II 論述問題

〔問題 I とは別の解答用紙を用いること〕

次の 4 問から 1 問を選び、解答しなさい。解答に当たっては、いずれを選んだかを冒頭に記入すること。

1. アジアにおける出版文化について、複数の事例を挙げつつ、述べなさい。
2. 東アジアにおける仏教の受容と変容について、具体例を挙げつつ、述べなさい。
3. 13~14 世紀におけるユーラシア東西の経済的交流について、述べなさい。
4. 19 世紀東アジア（東南アジアを含む）における自由貿易体制の拡大過程と、その歴史的意義について、具体的な貿易港の名前に触れつつ説明しなさい。

III 基礎事項問題

次の (a) ~ (e) の事項について知るところを、それぞれ 2 行程度で簡潔に答えなさい。

〔問題 I, II とは別の解答用紙を用いること〕

- | | | |
|----------|----------|--------------------------|
| (a) 光州事件 | (b) 五銖錢 | (c) マハーバーラタ Mahābhāratam |
| (d) 森安孝夫 | (e) 『申報』 | |

(3 枚目/3 枚中)

IV 漢文問題

次の漢文は、清代の王鳴盛が著した『十七史商榷』巻 25・漢書 19・礼記である。これを読んで、語注も参照しつつ、すべて現代日本語訳しなさい（日本語常用漢字を使用すること）。



語注)

魯共王 (?-128BCE) : 前漢景帝の子、劉餘。魯恭王ともいう。

鄭氏 : 後漢末の有名な儒学者、鄭玄 (127-200) のこと。

大小戴 : 前漢の戴徳・戴聖の二人を指す。いずれも今文經学の研究で著名。

令和7（2025）年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題
人文学専攻（英米文学受験分野）筆記試験
[問題用紙は7枚です。]
（1枚目/7枚中）

★一題ごとに別の解答用紙を用い、問題番号を記入すること。

I. 次の英文を読んで、下の設問に答えなさい。

※ 問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【出典】Jonathan Culler, *Literary Theory: A Very Short Introduction* (Oxford UP, 2000), p. 68, l.1-p. 69, l.30.

(I. 問題文の続き (出典は同じ))

- (1) 下線部 (イ) 内の “this distinction” が指す内容を日本語で答えなさい。
- (2) 筆者が下線部 (イ) であると考え、筆者流の区別立てはどのようなものか。“this distinction” との違いを明確にしながら日本語で答えなさい。
- (3) あなたの知っている文学作品を 1 つ取り上げ、(2) で解答した筆者流の区別立てに基づく二通りの解釈例を合計 350 字程度の日本語で提示しなさい。

II. 次の戯曲の冒頭部分を読んで、下の設問に答えなさい。

※ 問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【出典】 Martin Esslin (ed.), *Absurd Drama* (Penguin, 1965), p. 159, l.1-p. 161, l.37.

(II. 問題文の続き (出典は同じ))

(II. 問題文の続き (出典は同じ))

- (1) この戯曲に登場する Peter と Jerry はそれぞれどのような人物として創造されているか。それぞれの人物について各 300 字程度の日本語で描出しなさい。
- (2) このふたりの人物はどのような状況に置かれていると考えられるか。400 字程度の日本語で解説しなさい。

III. 次の英詩を読んで、下の設問に答えなさい。

※ 問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【出典】 Brian Martin (ed.), *Macmillan Anthologies of English Literature: The Nineteenth Century (1798-1900)* (Macmillan Education, 1989), p. 20, l.1-l.16.

- (1) この詩全行を日本語になおしなさい。
- (2) Write a short essay on the following topic in about 300 words in English:
“There are several children depicted in this poem. What do they symbolize?”

IV. 次の日本語の文章を読んで、傍線部を英語になおしなさい。

※ 問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【出典】古井義昭『誘惑する他者——メルヴィル文学の倫理』（法政大学出版局, 2024 年), p. 11, l.19-p. 12, l.8.

令和7（2025）年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題
人文学専攻 （テキスト環境論受験分野） 筆記試験
[問題用紙は 3 枚です。]
（1 枚目／ 3 枚中）

- I “What is Literature and Does it Matter?” と題された章からの引用である次の英文を読み、後の問い（イ）（ロ）に答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

出典：Jonathan Culler, *Literary Theory: A Very Short Introduction* (Oxford UP, 1997, p. 27, l. 27 – p. 28, l. 20)

（イ）本文の内容を適切な長さ（字数）の日本語で要約しなさい。

（ロ）下線部の “two different perspectives” から見たとき、大学院でのあなたの研究対象を “literature” とらしているものは、それぞれどのようなものだと考えられるか。あなたの研究対象からできるだけ具体的に例を挙げながら、日本語で述べなさい。

Ⅱ 下の文章を読んで、翻訳された詩の工夫や改変について、原文の詩と比較しながら分析して論じなさい。

出典は、蒲原有明『独絃哀歌』(白鳩社, 1903), pp. 94-5 及び Christina G. Rossetti, *Poems* (London: Macmillan, 1897), p. 339, p. 106 です。右下には、参考資料として同じ Christina G. Rossetti が “One Sea-side Grave” (1884) よりも前に詠んだ “After Death” (1862) を掲げています。

三、海邊の墓
(クリスチナ・ロセッティ)
おもひもいでず 薔薇さへ、
おもひもいでず うばらさへ、
さても 麥刈つかればて
積みし穂によりねぶること、
しかせむわれも 黎明まで、
寒きは寒き 臘月の
過ぎしはゆきし日のことき
その間も一人われをおもふ
世はみな忘れはつるとも
なほ一人のみわれを憶ふ

うばら: いばらのこと

臘月: 12月のこと

AFTER DEATH.

SONNET.

ONE SEA-SIDE GRAVE.

UNMINDFUL of the roses,
Unmindful of the thorn,
A reaper tired reposes
Among his gathered corn:
So might I, till the morn!
Cold as the cold Decembers,
Past as the days that set,
While only one remembers
And all the rest forget,—
But one remembers yet.

THE curtains were half drawn, the floor was swept
And strewn with rushes, rosemary and may
Lay thick upon the bed on which I lay,
Where through the lattice ivy-shadows crept.
He leaned above me, thinking that I slept
And could not hear him; but I heard him say:
“Poor child, poor child:” and as he turned away
Came a deep silence, and I knew he wept.
He did not touch the shroud, or raise the fold
That hid my face, or take my hand in his,
Or ruffle the smooth pillows for my head:
He did not love me living; but once dead
He pitied me; and very sweet it is
To know he still is warm though I am cold.

strewn: untidily scattered

rushes: tall plants that grow near water

may: a thorny plant, hawthorn

lattice: a structure made of strips of wood material which cross over each other diagonally
leaving holes in between

shroud: an enveloping garment in which a dead person is wrapped for burial

ruffle: to disorder or disarrange something by running one's hands through it

Ⅲ 次の文章は、梶井基次郎の小説「冬の目」の一部です。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

出典

『梶井基次郎全集 第一巻』筑摩書房、一九九九年一月、一三七頁～一行目、一三九頁～五行目

煤——赤く熱した炭火。まきなどが燃えて炭火のようになったもの。

水準器——水平面あるいは鉛直面を定めたり、物体の角度や傾斜を調べたりするのに用いる器具のこと。水平器。

死灰——火の気が無くなり冷たくなった灰。また、生気を失ったもの。

問

(イ) 傍線部(1)について、「自分が敏感な水準器になつてしまったのを感じた」とはどういうことか。本文に即して論じなさい。

(ロ) 傍線部(2)について、「彼の足はもう進まなかつた」のはなぜだと考えられるか、説明しなさい。

(3枚目/3枚中)

令和 7(2025)年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題

人文学専攻(比較・対照言語学受験分野)筆記試験

[問題用紙は2枚です。]

(1枚目/2枚中)

★一題ごとに別の解答用紙を用い、問題番号を記入すること。

1. 以下の英語の文章を読み、下線部の内容を日本語でまとめなさい。

A.

[出典: Beth Levin and Malka Rappaport Hovav (2005) *Argument Realization* (p. 88, 1.4-1.5, p.89, 1.3-1.29). Cambridge University Press. (改変あり)]

B.

[出典 : Patsy M. Lightbown and Nina Spada (2013) *How Languages are Learned* (p.5, l. 13-1.24). Oxford University Press.]

(2 枚目/2 枚中)

2. 次の項目の中から 5 つを選んで、簡潔に日本語で説明しなさい。どの語を選んだかわかるように番号を付すこと。

- | | |
|---|-----------------------------|
| (1) Negative Polarity Item (NPI) | (6) scalar implicature |
| (2) entailment | (7) theta-role |
| (3) derivational and inflectional morphemes | (8) Case |
| (4) complementary distribution | (9) Quantifier Raising (QR) |
| (5) sound symbolism | (10) indefinite pronoun |

3. 以下の日本語の文章を読み、下線部を英語にしなさい。

[出典：時本真吾（2020）『あいまいな会話はなぜ成立するのか』（p. 5, 1.1-1.10）岩波書店.]

4. 大学院入学後の研究計画について、英語あるいは日本語で説明しなさい。字数制限はありません。

令和七（二〇二五）年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基礎日本学コース・芸術学専攻

（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題

日本学専攻（日本文学・日本語学専攻分野）筆記試験

〔問題用紙は六枚です。〕

（一枚目／六枚中）

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること）

むかし漢の元帝と申す帝^{みかど}おはしましけり。三千人の女御・きさきの中に王昭君と聞こゆる人なん、はなやかなる事は誰にもすぐれ給へりけるを、①この人、帝にま近く^{ちかづ}臨れつかうまつらば、我らさだめて物のかずならじ」と、あまたの御心にいやましくおぼしけり。この時に、胡の王なりけるもの、まいりて申さく、「三千人までさぶらひあひ給へる女御・きさき、いづれにても一人たまはらん」と申すに、上、みづから御覧じつくさん事もわづらひありければ、そのかたちを絵にかきて見給ふに、人の教へにやありけん、この王昭君のかたちをなんみにくきさまになん写したりければ、胡の王、たまはりてよろこびひらけつつ、我が国へ具してかへるに、②ふるさとをこふる涙はみちの露にもまさり、なれし人々にたち別れぬる嘆きは、しげき深山の行く末はるかなり。かかるままには、ただねをのみ泣けどもなにかひかはあるべき。

A うき世ぞとかつは知る知るはかなくも鏡のかげをたのみけるかな

あはれを知らずなさけ深からぬものなれども、らうたき姿にめでて、かしづきうやまふ事その国のいとなみにも過ぎたり。かかれどもふりにし都をたち別れにしより、今にいたるまで、うれへの涙かはく間もなし。③この人は鏡のかげのくもりなきをのみたのみて、人の心のにごれるを知らず。

（『唐物語』）

* いやましく—おもしろくなく。

問一 傍線部①は、誰のどのような心情を示しているか。詳しく説明しなさい。

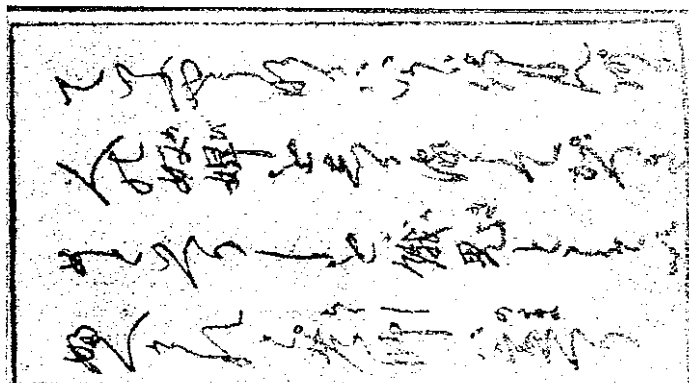
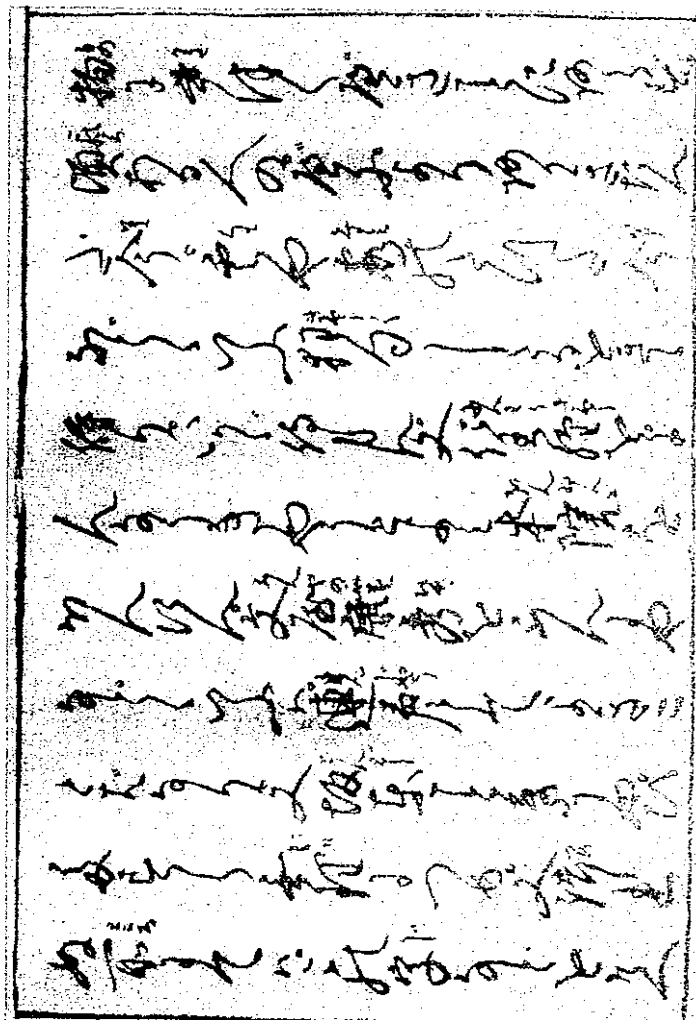
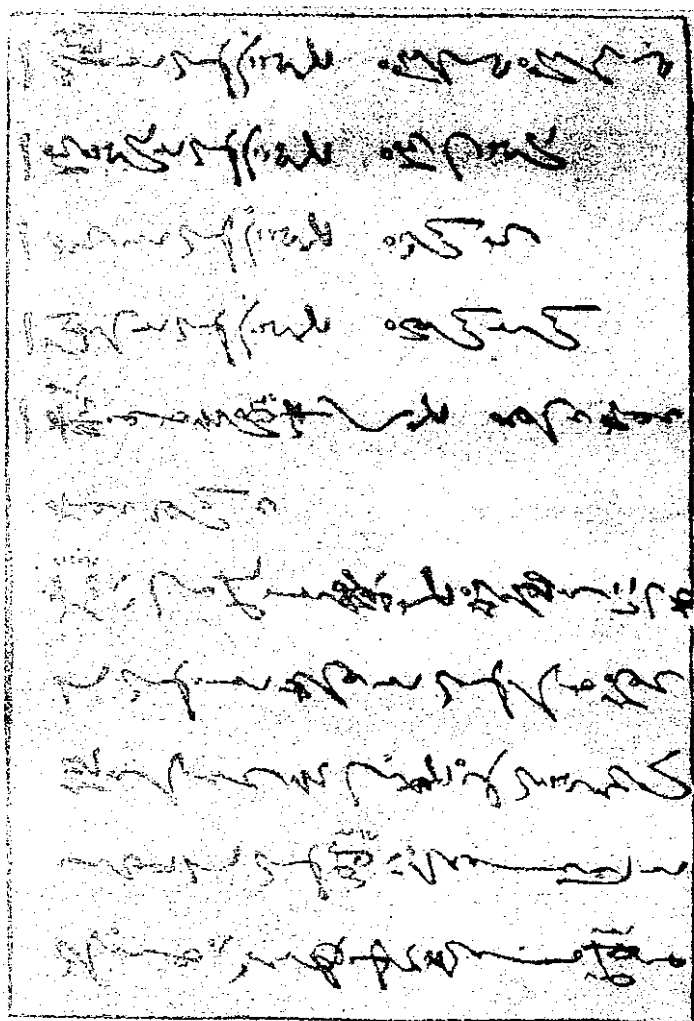
問二 傍線部②は、誰のどのような心情を示しているか。詳しく説明しなさい。

問三 A の和歌を現代日本語訳しなさい。

問四 傍線部③に示された語り手の批評は、王昭君をどのような人物として捉えていると考えられるか。自由に論じなさい。

【二】 次の資料は、安原貞室『かたこと』（慶安三（一六五〇）年刊行）の画像とその翻刻です。これを読んで、後の問いに答えなさい。（この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること）

【画像】



(<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjalDI/katakoto/002/PDF/ktkt-002.pdf> 465)

（一枚目／六枚目）

【翻刻】

一 唯（ただ）といふべきを。たつた。たんだ

一 さきにといふべきを。さつきに

一 いちといふべきを。いつち

一 ひとつといふべきを。ひとつ

一 前（まへ）にも云る。＊中／＼をなつかなかなかなつ

右（みぎ）いつゝのこと葉を。かやうにつめていふこと如何といふ人も侍り 但うへより云つゞけ。

又いきほひかゝりていふ時（とき）は。くるしからじといへども。いはぬにはしかじ。殊（こと）

に物（もの）に書（かき）つくべきことにあらず。頃（このころ）ある人の。べによりあかきたん

だ今（いま）。雲（くも）や霞（かすみ）のたつた今（いま）などといふ狂句（きやうく）したる

をき侍り。いかゞ侍らん。又仁王經（にんわうぎやう）を。にんなうぎやうとよみ本院（ほんゐ

ん）をほんにん。文屋康秀（ふんやのやすひで）をふんにやなどといふは。連声（れんじやう）と

てよきことばなり。又坂東（ばんとう）こと葉にや。ひたすら無理（むり）につめ。又詰（つめ）

られぬ所（ところ）にては。この字（じ）などをそくしていふやうなるはいかゞ侍らん。ある人の奴

婢（ぬび）をしかるとて。がつきめといへりしを。餓鬼（がき）とこそいふべけれと。老師（らう

し）は宣（のたま）へり

注 ＊引用箇所より前の部分で述べたということを指す。

問一 傍線部を、「この字」の指すところを明示し、適宜、言葉を補って、分かりやすい現代日本語に訳しなさい。

問二 この資料の例を引用しながら、次の①②について説明しなさい。

① 連声の史的変遷

② 助動詞「べし」の史的変遷

問三 日本語史から見たこの資料の特徴をあなたの観点から自由に設定し、説明しなさい。ただし、問二 ①②の事柄は除くこと。

三 次の文章は、堀辰雄の小説『窓』（一九三〇）の全文です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

《引用は『聖家族・美しい村 他七篇』（角川書店、一九五二）三二―三六頁》

（この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること）

或る秋の午後、私は、小さな沼がそれを町から完全に隔離してゐる、り夫人の別荘を訪れたのであった。

その別荘に達するには、沼のせまりを迂回してゐる一本の小徑によるほかはないので、その樹が沼に落ちてゐるその影とともに、たえず私の目の先にあつたが、私はなかなかそれを見ることが出来なかつた。私が歩きながら何時のまにか夢見心地になつてゐたのは、しかしそのせゐばかりではなく、見えてゐたやうな別荘それ自身の風變りな外見にもよるものであつた。といふのは、その灰色の小さな建物は、どこからどこまで一面の藁がからんでゐて、その繁度の状態から推すと、この家の在の銀葉は最近になつて一度も開かれたことがないやりに見えたからであつた。私は、さういふ家のなかに、數年前からたつた一人きりで、不幸な眼疾を養つてゐるといふ事を、美しい未知の事を、いくぶん浪漫的に、想像せずにはゐられなかつた。

さうして私は、某の突然の訪問と、私の携へてきた用件とが、さういふ夫人の誰か生活から遠ざかることを意味したのなつた。私の用件といふのは、――最近、私の恩師である氏の遺作展覧會が開催されるので、夫人の所有にかかはるところの氏の晩年の作品の一つを最事とも出品して置けりうがためであつた。

その作品といふのは、それが氏の個人展覧會にはじめて發表された時は、私もそれを一度見ることが出来たものであるが、それは難解なものの多い晩年の作品の中でもことに難解なものであつた。その「窓」といふごく簡単な表題にもかかはらず、氏獨特の線と色彩とによる異常な、さういふものに、そこに描かれてゐる對象のほとんど何物をも見分けることの出来なかつた作品であつた。しかしそれは、氏のもつとも自ら愛してゐた作品であつて、その晩年私に、自分の病を理解するための鍵はその中にある、とまで云はれたことがあつた。だが、何時からかその病の所有者となつてゐたり夫人は、何故かそれを深く秘藏してしまつて、その後われわれの再び見る機会を得なかつたものであつた。そこで、私は今度の氏の遺作展覧會を口實に、それに出品してもらふことの出来ないうまでも、せめて一目でもそれを見たいと思つて、この別荘への訪問を思ひ立てたのであつたが、……

私は漸くその別荘の前まで來ると、ためひながら、そのバルを押した。

しかし家の中はじいんとしてゐた。このバルはあまり使はれないので鳴らなくないでゐるのかしらと思ひながら、それをためすかのやうに、私がもう一度それを押さうとした瞬間、扉は内側から機械仕掛で開かれやうに、私の前にしづかに開かれた。

夫人に面會することすら殆んど絶望してゐた私は、私の名前を通じると、思ひがたうも容易にそれを受けられたのであつた。

私の案内された一室は、他のどの部屋よりも、一そう薄暗かつた。

（四枚目／六枚中）

私はその部屋の中に通入つて行きながら、隅の方の椅子から夫人がしづかに立ち上つて私に顔を向けるのを認めた時には、私はあやふく夫人が眞面目であるのを感れようとした位であつた。それ以上、夫人はこの家の中でなら、何もかも知悉してゐて、ほとんどわれわれと同様に振舞へるらしい、思ふたからである。

夫人は私に椅子の一つをすすめて、それに私の腰を下したのを知ると、ほとんど唐突と思はれるくらい、A氏に関するさまざまな質問を、次から次へと私に尋ねるのだつた。

私は勿論、よほど自分の知つてゐる限りのことを彼女に答へた。

のみならず、私は夫人に眞に入らうとするのあまり、夫人の質問を待たうとせず、私だけの知つてゐるA氏の秘密まで、いくつとなく洩らした位であつた。たとへば、からいふことまでも私は夫人に話したのである。——私はA氏とともに、第何回かのフランス美術展覧會にロザンヌの繪を見に行つたことがあつた。私達はしばらくその繪の前から離れられずにゐたが、その時あたりに人氣のないのを見ますと、いきなり氏はその繪に近づいて行つて、自分の小指を唇で触らしながら、それでもつてその繪の一部をしきりに觸つてゐた。

私は思はずそれから不吉な豫感を感して、そつと近づいて行くと、氏はその緑色になつた小指を私に見せながら、「かりでもしなければ、この色はとても盛めないよ」と低い聲でささやいたのであつた。……

私はさういふ話をしながら、A氏について異常な好奇心を持つてゐるらしいこの夫人が、いつか私にも或る特別な感情を持ち出してゐるらしいことを見逃さなかつた。

そのうちに私達の話題は、夫人の所有してゐる氏の作品の上に落ちて行つた。

私は、さつきから待ちに待つてゐたこの機會をすばやく捕へるが早い、私の用件を切り出したのである。

するとそれに對して彼女の答へたことはかうであつた。

「あの繪はもうA氏の繪として、世間の人々にお見せすることは出来ないのです。たとへてそれをお見せしたところで、誰もそれを本物として取扱つてはくれないでせう。何故と言ひますと、あの繪はもう、それが數年前に持つてゐたほとりの姿を持つてゐないからです。」

彼女の言ふことは私にはすぐ理解されなかつた。私は、ことによるとこの夫人は氣の毒なことによつて氣が變になつてゐるのかも知れないと考へ出した位であつた。

「あなたは數年前のあの繪をよく憶えていらつしやいますか？」と彼女が言つた。

「よく憶えてゐます。」

「それなら、あれを一度お見せさへしたら……」

夫人はしばらく何か躊躇してゐるやうに見えた。やがて彼女は云つた。

「……まづしうございます。私はそれをあなたにお見せいたします。私はそれを私だけの祕密として置きたかつたのですけれど。——私はいま、このやうに眼を病んで居ります。ですから、私がまだこんなに眼の悪くなかつた數年前にそれを見た時と、この繪がどんなに變つてゐるかを、私はたゞ私の心で感じてゐるのに過ぎません。私はさういふ自分の感じの正確なことを信じて居りますが、あなたにそれをお見せして、一度それをあなたにも確かめていただくさうございます。」

そして夫人は、私を促すやうに立ち上った。私はうす暗い廊下から廊下へと、私の方がかゝつて眼が見えないかのやうに、夫人の跡について行つた。

急に夫人は立ち止つた。そして私は、夫人と私とがA氏の絵の前に立つてゐることに気がついた。その絵はどこから来るのか、不思議な、何でも言へず神秘的な光線のなかに、その内廊とか、部屋とかわからないやうな場所の、宙に浮いてゐるやうに見えた。——といふよりも、文字通り、そのうす暗い場所にひらかれてゐる唯一の「窓」であつた！そしてそれの横びてゐるこの世ならぬ光りとは、その絵自身から發せられてゐたもののやうであつた。或ひはその窓を透して一つの超自然界から通入つてくる光線のやうであつた。——と同時に、それはまた、私のかたはらに居る夫人のその絵に対する鋭い感受性が私の心にまで傳播してくるためのやうにも思はれた。

その上、私をもつと驚かせたのは、その超自然的な、光線のなかに、數年前私の見た時にはまったく気づかなかつたところの、A氏の青白い顔がくつきりと浮び出してゐることだつた。それはいま初めて發見する私の驚きかたといふものはなかつた。私の心臓ははげしく打つた。

けれども私には、數年前のこの絵に、さういふものが描かれてあつたとは、どうしても信ずることが出来なかつた。

「あつ、A氏の顔が——」と私は思はず叫んだ。

「あなたにもそれがお見えになりますか？」

「たゞ確かに見えます」

その瞬間にいつしか傾けてきた私の眼は、その時夫人の顔の上に何ともいへぬ輝かしい色の光つたのを認めた。

私は再び私の視線をその絵の上に移しながら、この驚くべき變化、一つの奇蹟について考へ出した。それがこのやうに描きかへられたのではないことはこの夫人を信用すればいい。よしまた描きかへられたのにせよ、それはむしろ私達がいま見てゐるものの上に、更に線や色彩を加へられたものが數年前に私達が展覧會で見たものであつて、それが年月の流れによつて變色か何かして、その以前の下絵がおのづから現はれてきたものと置はなければならない。さういふ例は今までに多くはない。例へばセントレットの壁紙などがさうであつた。

——だが、それにしては、この絵の場合は、あまりに、日數が少なすぎる。數年の間にそのやうな變化が果して起り得るものかどりは疑はしい。さうだとすると、それは丁度現在のやうに、夫人の驚くべき美感性によつてこの絵の置かれてある唯一の距離、唯一の照明のみが、その他のいかなる距離と照明においても見ることが得ない部分を、私達に見せてゐるのであらうか？

さういふことを考へてゐるうちに、私にふと、A氏はかつてこの夫人を深く愛してゐたことがあるのではないか、そして夫人もまたそれをひそかに受け容れてゐたのではないか、といふ疑ひがぽろぽろと湧いて來た。

それから私は深い感動をもつて、私の前のA氏の傑作と、それを見入つてゐることと思はれるO夫人の病める眼とを、かはるがはる眺めたのである。

問一 「私」の「O夫人」に対する印象は、どのように変化していますか。その移り変わりを説明しなさい。

問二 この小説において「窓」という語が持つてゐる意味を説明しなさい。

問三 堀辰雄という作家の文学史上の位置について、知つてゐることを説明しなさい。

(六枚目／六枚中)

令和7（2025）年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題
日本学専攻（基盤日本語学受験分野） 筆記試験

【問題用紙は4枚です。】
（1枚目/4枚中）

[1] 次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。
出典：石部尚登（2015）「医療現場における方言の「やさしさ」」義永美央子・山下仁編『ことばの「やさしさ」とは何か：批判的社会言語学からのアプローチ』三元社，pp.105-110（11行目まで）。

- 問1 下線部①、医療の現場において「共通語」が障壁となるとはどういうことか、本文の内容に即して説明しなさい。
- 問2 本文で述べられている「医療の現場における言語問題」について、それらが「だれにとって問題であるか」という観点から整理して述べなさい。
- 問3 下線部②「ウェルフェア・リングイスティクス (Welfare Linguistics)」について、あなた自身はどのように考えるか。自由に論じなさい。

[2] 次の14項目のなかから5項目を選び、それぞれについて5行から10行程度で説明しなさい。解答言語は日本語とします。

- | | |
|--------------|-------------------------|
| (1) 補助動詞 | (9) 相互行為能力 |
| (2) 格助詞 | (10) ジェンダー |
| (3) 語彙化 | (11) イントネーション |
| (4) 同格構造 | (12) 音節構造 |
| (5) ことばの民族誌 | (13) 位相語 |
| (6) 一段動詞の五段化 | (14) 統合関係（シンタグマティックな関係） |
| (7) ダイグロシア | |
| (8) 言語地理学 | |

[3] あなたが今後研究しようとするテーマに関連するキーワードを5つ挙げ、それぞれについて5行から10行程度で説明しなさい。解答言語は日本語とします。

令和7（2025）年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題

芸術学専攻 （アート・メディア論受験分野） 筆記試験

〔問題用紙は2枚です。〕

（1枚目/2枚中）

問1 次に挙げる8つの用語もしくは固有名詞のなかから5つを選び、それぞれを5行程度の日本語で説明しなさい。

- (1) アンドレ・バザン (2) 並行モンタージュ (cross-cutting) (3) ヴァルター・グロピウス
(4) ポスト・モダン建築 (5) エミール・レイノー (6) のぞきからくり (覗き絡繰)
(7) マリウス・プティパ (8) 人形振り

問2 次に挙げる4つの設問(1)～(4)の内から2つを選び、日本語で解答しなさい。

(1) 社会問題を取り上げた映画作品の例を挙げ、具体的な場面の分析を通して、それが映画の歴史にどのように位置づけられているか、論じなさい。

(2) 図版①（オリジナル建築を使用し続けている「甲子園会館（旧甲子園ホテル）」）、図版②（ファサード保存を軸とする）「大丸百貨店・心齋橋店」）を参考にしながら、以下の三つの問い（A、B、C）に答えなさい。

A： 図版①と②の**オリジナル**の建物の様式・デザインの特徴を、モダニズム建築の展開と関連付けて論じなさい。

B： 図版①と②の建物の保存・活用方法のメリットとデメリットを対比的に考察しなさい。

C： 第二次世界大戦以前に建てられた石造・鉄筋コンクリート造建築の保存・活用は、現代の都市生活のなかで、どのようにあるべきだとあなたは考えますか。問い「B」での考察をふまえて、別紙図版**以外**の具体事例を引きながら論じなさい。（取り上げる事例の国・地域・数は問わない）

(3) 現在、世界各地の映画アーカイブでフィルム映像のデジタル化が進んでいます。デジタル化による利点は知られているが、その問題点について分析的に論じなさい。

(4) チュチュと呼ばれるバレエの衣裳について、メディア論に照らして考察しなさい。

画像は、著作権等に配慮し、省略します。 なお、出典は以下のとおりです。

図版① 武庫川女子大学・甲子園会館（旧甲子園ホテル）遠藤新設計、1930 年竣工

出典：https://www.mukogawa-u.ac.jp/campus/kamikoushien_campus.html

画像は、著作権等に配慮し、省略します。 なお、出典は以下のとおりです。

図版② 大丸百貨店・心齋橋店 オリジナル部分は 1933 年竣工、W. M. ヴォーリズ設計

出典：https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/8/88/DAIMARU_Shinsaibashi_Store_Main_Building.jpg

令和7（2025）年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題

芸術学専攻（音楽学受験分野）筆記試験

〔問題用紙は2枚です。〕

（1枚目/2枚中）

問1 次の英文を日本語訳しなさい。〔配点50点〕出典：Matt Sakakeeny, “Music”, in David Novak and Matt Sakakeeny (eds.), *Keywords in Sound*, 2015, Duke University Press, p.112, ll.9-21

（問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。）

(2 枚目／2 枚中)

問2 次に掲げる文章を読んで、あなたの研究対象または関心のある対象について、ナティエの概念を使用しながら論じなさい。〔配点 50 点〕 出典：徳丸吉彦 『ミュージックスとの付き合い方——民族音楽学の拡がり』、東京：左右社、2016 年、p.279, 1.4-p.281, 1.1

(問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。)

令和7（2025）年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

（博士前期課程／外国人留学生選抜・冬期試験）入学者選抜試験問題

芸術学専攻（日本東洋美術史受験分野）筆記試験

〔問題用紙は4枚です。すべて日本語で答えなさい。〕

問1 以下の用語のうち4つを選び、それぞれ100字程度で説明しなさい。

〔配点20点〕

- 1) マーク・ロスコ
- 2) 《絵画芸術の寓意》（フェルメール）
- 3) フェミニズム美術史
- 4) 撥鏤
- 5) 誕生仏
- 6) 本朝画史

問2 別紙1の問題に答えなさい。〔配点28点〕

問3 別紙2の問題に答えなさい。〔配点12点〕

問4 別紙3は原田直次郎筆「騎龍観音」（1890年、護国寺蔵）です。図様を詳しく記述したうえで、あなたが考えるこの作品の魅力について述べなさい。〔配点40点〕

別紙 1

問 次の文は、『日本書紀』推古天皇十四年（国立国会図書館デジタルコレクション『秘籍大観』巻第二十一・二十二）の一節です。これを読んで後の設問に答えなさい。

画像は著作権等に配慮し、掲載を省略します。

問一 傍線部 1（時佛く入堂）、傍線部 2（即賜く尼寺）を書き下しなさい。

問二 「五月甲寅く汝之功也」の大意を日本語で記しなさい。

問題 左図は沢庵宗彭（一五七三〜一六四六）賛・松花堂昭乗（一五八二〜一六三九）画「朝陽図」（個人蔵）です。賛の全文を翻刻しなさい。

画像は著作権等に配慮し、掲載を省略します。

← 賛 部分

全図 →

3 枚目／4 枚中

画像は著作権等に配慮し、掲載を省略します。